

「何んぢや、甚い勢いぢやな」

「へ、ゴテ／＼無しに取ときなんせテ奴ぢや」

「甚い勢ひやな、わざ／＼品物でも替へて来てくれたんか、甚い氣の毒なそないに仕てくれんでもえゝのに」

「ゴテ／＼無しに取ときなんせ」

「コレ、これは今の生貝やないか、さてはお前私所に何んぞ恨みでもあつてこんな物を持つて來たんやな」

「此處ぢや、急くな」

「誰も急いてはせんわい」

「己れ所のド息子にド嬬貰ひさらしたやないか」

「甚い汚い云ひ様やな、それより汚う云へんな、ハイ嫁を取りました」

「取つたか、よう取つた」

「猫が鼠を取つた様に云ふてる」

「他所から祝を貰ひさらすやろ」

「その物の云ひ様はどうぢや、そら私所は交際が廣いので、おかげで彼方此方から澤山下さるわい」

「そこぢや、急くな」

「一寸も急きはせんわい」

「その祝物に附いて來る鬘斗を剝つて返すか」

「そら妙な事を聞きなさる、目出度い鬘斗ぢやいたゞいておきますわい」

「おいでな」

「何がおいでた」

「私がお前はん所へおいでたんで、鬘斗のボン／＼を知つてるか、ボン／＼を」

「ボン／＼て何んぢや」

「その鬘斗のボン／＼、鬘斗の元を知つてるかと云ふのぢや」

「甚い事を云ひよる、そら私は知らん」

「知らん、おいでた、御免なはれや……ドツコイショ」

「甚い勢ひで上つたな、下駄履いて上つたら泥だらけや、そんな所で尻を捲つて何を仕てるね」

「鬘斗のボン／＼と云ふたらな、志州鳥羽浦志摩浦で海女が漁業を仕ますわい、海女と云ふたら繪に書いたある様に綺麗なものと思ふやろ、あれは繪空事ぢや、眞實の海女と云ふたら（節をつける）潮風に吹れてお色は眞黒け」